

【計画期間】 令和6～10年度（5年間）
 【面積】 38.10 Km²
 【人口】 約1.6万人

大淀町は、吉野川中流域の北岸の台地にひらかれたまちで、隣り合う市町村とは一部を除いて、下線や分水嶺等の自然境界で接している。



大淀町では、母なる大河・吉野川を中軸として、「まほろば」と称される大和盆地（農村）と、林産業の盛んな吉野山地（山村）の民俗が交差する、個性的な歴史文化が育まれてきた。

歴史文化の特性

1

記紀伝承を物語る古代吉野の遺産 -吉野の古墳と古代寺院-

伝承に記された人物や、遺跡や古墳と日本最古の仏像伝承が現在に受け継がれている。

2

聖地へつながる吉野路の交差点 -街道と文化交流-

聖地巡礼の交差点であり、修験道をはじめとする特徴的な神仏への信仰が今も息づいている。

3

人と自然がおりなす吉野川の民俗 -水と暮らしの文化-

吉野川とその支流が生み出す豊かな自然に恵まれた、有形・無形の民俗や伝承地等が残されている。

4

中世芸能文化のルーツ・吉野猿楽 -お囃子の芸祖と吉野-

世界無形文化遺産・能楽のお囃子の芸祖たちを輩出した〈吉野猿楽〉のふるさとである。

5

吉野の風土に生きた偉人たち -岸田日出男と花岡大学-

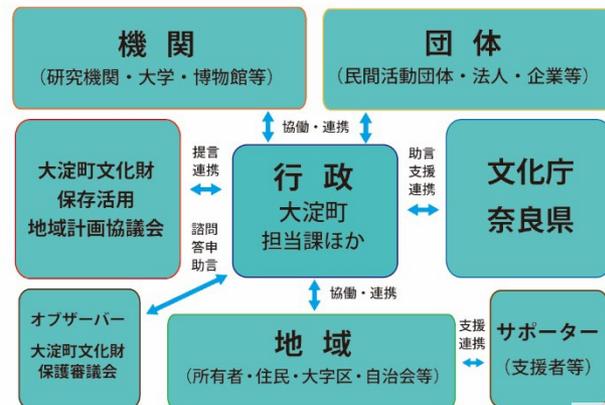
吉野熊野国立公園の父・岸田日出男、仏典童話の開拓者・花岡大学の遺産が残されている。

指定等文化財件数一覧 (令和5年8月現在)

類型		国指定	県指定	町指定	小計
有形文化財	建造物	0	1	0	1
	絵画	0	0	1	1
	彫刻	0	1	7	8
	美術工芸品	0	0	0	0
	書跡・典籍	0	0	0	0
	古文書	0	0	0	0
	考古資料	0	0	0	0
	歴史資料	0	0	1	1
無形文化財		0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	2	2
	無形の民俗文化財	0	0	1	1
記念物	遺跡	1	1	3	5
	名勝地	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物	0	0	2	2
文化的景観		0	-	-	0
伝統的建造物群		0	-	-	0
合計		1	3	17	21

- 指定等文化財は、21件
- 未指定文化財は、231件を把握

推進体制



基本理念 ふるさと・おおよどの遺産を次世代につなぐ

基本方針

1 ふるさとの遺産をみんなで支え、守り伝える社会づくり

2 みんなが集い、学び深めるふるさとの拠点づくり

【課題1】 調査・研究

- ・地域遺産の継続的な把握調査と記録保存が十分にできていない
- ・多様な視点で地域遺産群の関連性を語る「ストーリー」がない 等

【課題2】 人材育成

- ・地域遺産の次世代の担い手がいない、人材の確保ができず、継承が困難 等

【課題3】 保存・継承

- ・地域遺産の持続的な保存・管理と周辺環境の保全が難しくなっている 等

【課題4】 拠点整備

- ・地域遺産を保存・活用し次世代に継承していく拠点が未整備 等

【課題5】 情報発信

- ・地域遺産の発信情報が少なく、過去の情報が更新されていない 等

【方針1】 調査・研究

- ・地域遺産を継続的に把握、記録保存していく。
- ・多様な視点から地域遺産の調査・研究をおこない、「ストーリー」を作っていく。等

【方針2】 人材育成

- ・地域遺産（伝統文化等）の次世代の担い手を育成していく。 等

【方針3】 保存・継承

- ・地域遺産の持続的な保存・管理をめざす。
- ・国史跡の保存活用計画を作成していく。 等

【方針4】 拠点整備

- ・地域遺産を保存・管理する拠点施設の整備計画を作成する。
- ・地域遺産を利活用できる環境を整備していく。 等

【方針5】 情報発信

- ・デジタルコンテンツの制作・配信・活用を推進し、地域遺産の情報を随時更新しつつ、その魅力を多世代にPRする。 等

1-4 「おおよど遺産ストーリー」の作成

地域遺産の魅力とその価値について多様な視点から研究する参加型のワークショップを実施し、ストーリーを作成する。

- ◆行政・地域・団体
- ◆R6~10



仏像の調査等

2-6 地域遺産の保存・活用にかかわる団体の設立

地域遺産の複合的な保存・活用とその寄付金獲得にかかわるネットワーク構築ができる民間活動団体を設立していく。

- ◆行政・地域・団体
- ◆R8~10



講習会
柿の葉ずし

3-6 「(仮) 史跡比曾寺跡保存活用計画」の策定

大淀町で唯一の国史跡・比曾寺跡について、東西塔跡と宝物庫（収蔵展示施設）の整備を軸とする保存活用計画を策定する。

- ◆行政・地域
- ◆R8~10



史跡比曾寺跡

4-1 地域遺産の保存・管理施設の確保と整備計画の策定

既存の公共施設や学校等の空きスペースなどを確保し、収集した地域遺産を保存・管理する拠点施設を造っていくため、その整備計画を策定する。

- ◆行政 ◆R8~9



頭骨標本
二ホンオオカミ

5-7 地域遺産コンテンツの制作・配信

地域や学校等と連携し、地域遺産の情報から多世代が楽しめるデジタルコンテンツを制作し、インターネットを利活用し、随時発信しながら町の魅力PRにつなげる。

- ◆行政・団体・機関 ◆R7~10



公開と活用
ドローン映像の

重点事業 1 「おおよど遺産ストーリー」の設定にむけて



「おおよど遺産」の分布図

大淀町の歴史文化の特性（5つのテーマ）	
1	記紀伝承を物語る古代吉野の遺産 — 吉野の古墳と古代寺院 —
2	聖地へつながる吉野路の交差点 — 街道と文化交流 —
3	人と自然がおりなす吉野川の民俗 — 水と暮らしの文化 —
4	中世芸能文化のルーツ・吉野猿楽 — お囃子の芸祖と吉野 —
5	吉野の風土に生きた偉人たち — 岸田日出男と花岡大学 —

おおよど遺産ストーリー

◆本計画では「関連文化財群」について、本町独自の地域遺産保存・活用事業のなかで進めている「おおよど遺産」の取り組みと関連付けて「おおよど遺産ストーリー」と称する。

⇒【措置1-4】「おおよど遺産ストーリー」の作成

◆行政・地域・団体 ◆R6～10

◆町内の地域遺産をテーマごとに分類し、連想しながら、その背景にあるストーリーを練りながら、計画期間内におおよど遺産ストーリーを設置・検討。
（右表：想定される12の「おおよど遺産ストーリー」）

◆設定された「ストーリー」に基づき、コンテンツの制作・配信をおこない、「ストーリー」を活かした周遊・体験型イベントの実施をめざす。

⇒【措置5-7】地域遺産コンテンツの制作・配信

◆行政・団体・機関 ◆R7～10

想定される12の「おおよど遺産ストーリー」

- 1 古：古代史ゆかりの地
- 2 伝：伝承地とその遺産
- 3 祈：祈りの場所（社寺ほか）
- 4 路：地域の街道や古道
- 5 水：水遺産と人のかかわりをつなぐ
- 6 樹：珍しい植物や巨樹遺産をつなぐ
- 7 創：ものづくりの智恵と技をつなぐ
- 8 農：農業遺産の魅力をつなぐ
- 9 芸：芸能文化のルーツをつなぐ
- 10 祭：祭礼の伝統をつなぐ
- 11 人：著名な人物ゆかりの場所をつなぐ
- 12 戦：戦争と近代の記憶遺産をつなぐ

古	伝
祈	路
水	樹
創	農
芸	祭
人	戦

重点事業2 広域での取り組み

「(仮称)広域観光圏構想／(仮称)広域文化財保存活用構想」の策定にむけて

◆吉野郡域全体の将来的な目標として、大淀町の歴史文化の特性をいかしつつ、「道の駅(吉野路大淀iセンター)」をハブ拠点とし、世界遺産や日本遺産、郡内の観光地や文化施設等を周遊する「(仮称)広域観光圏構想」の策定と、それにもなう環境整備等を検討していく。また、郡内の地域遺産等について、より広域での保存・活用をめざす「(仮称)広域文化財保存活用構想」について検討し、そのなかでの大淀町の役割についても模索していく。

⇒【措置4-2】文化・観光・交流施設での地域遺産の利活用にかかわる環境整備

行政と地域が連携し、観光施設(道の駅吉野路大淀iセンター等)・文化施設(町文化会館・町立杉本記念文化センター等)・交流施設(各地のコミュニティ施設・古民家等)の環境を整備し、広域観光に資する取り組みや地域遺産の利活用(展示・解説)をおこなう。 ◆行政・地域 ◆R9～10

⇒【措置4-3】地域遺産の展示・学習教材の整備

拠点施設で使用する展示用の模型や複製品・副読本の作成などをおこない、地域や学校の学習教材としても活用する。 ◆行政・団体 ◆R8～10

◆背景

本町を含む奈良県吉野郡は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や日本遺産「森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～」といった文化遺産に恵まれている。本町にその構成資産はないが、本町は地理的にみても、その現地を訪れる際にならざる通ずる交通アクセスの拠点となっている。吉野郡内に所在する「世界遺産」や「日本遺産」にいたる玄関口としての機能が求められている。

◆周辺自治体との連携

吉野郡3町8村のなかで、現在、文化財主管部局に文化財専門職を配置している自治体は、吉野町・大淀町・十津川村だけである。郡内において、質の高い文化財行政サービスを持続させつつ、より一体的な広域での文化財の保存・活用をめざすには、各自治体の地域遺産に精通した専門職・担当者同士の補完・支援の体制づくりが不可欠である。そのなかで大淀町の果たす役割は大きい。

